

謝ることの勇氣と信仰 ＝ハンセン病と私たち＝

主教ルカ武藤 謙一

昨年の熊本地震から一年余が過ぎました。菊池恵楓園内にある被災した菊池黎明教会聖堂は立ち入り禁止となり、それ以来園内の施設の一室を借りて主日礼拝をささげています。菊池黎明教会の信徒は今後のことについて祈り検討してきましたが、被災した建物を菊池恵楓園に返還することにしました。

4月29日には教区内から多くの信徒・教役者が集い感謝礼拝・聖別解除の祈りを行いました。「黎明会」という集まりが始まって105年、現在の聖堂が献堂されてから65年になりますが、菊池黎明教会は一つの大きな節目を迎えました。

その折に菊池恵楓園入所者自治会機関誌『菊池野』（通巻736号）をいただきました。そこには昨年開催された日本聖公会第62（定期）総会で可決された「ハンセン病回復者と家族のみなさまへの謝罪表明」が全文掲載されていました。管区事務所から全国のハンセン病療養所自治会宛に遅れられた謝罪声明を掲載して下さったのでしょう。そのことに感謝すると同時に、日本聖公会の関係者だけではなく広く療養所の入所者の皆

さんやその家族など多くの方々がわたしたちの謝罪声明文を読んでいることを思い、身の引き締まる思いにもしました。



菊池黎明教会でも主日礼拝に出席される療養所内の信徒は数名であり、終焉期にあることを実感します。しかし、いただいた『菊池野』に掲載されている入所者の短歌や俳句などを読んでみるだけでも、今もなお差別や偏見があること、隔離政策によって無視され踏み躪られてきた人間の尊厳、その痛みや悲しみは消えておらず、今もあることが分かります。

日本聖公会の謝罪声明に約束している通り、「今後、偏見・差別のなくすための啓発活動に積極的に取り組んでゆくこと」、また「日本聖公会は、終焉期にある療養所における教会の信徒への宣教・牧会を真摯に行っていくこと」が今こそ求められていることを強く思います。全国のハンセン病療養所内にある教会に一人でも多くの方が訪ね交わりをもたれることを願っています。

（むとう けんいち 日本聖公会九州教区主教）

民主主義＝韓国への絶えぬ闘い

「わたしは正義を衣としてまとい、公平はわたしの上着、
また冠となった」(ヨブ記29章14節)

司祭 香山洋人

保守対革新の緊張関係は民主主義の知恵だとい
う。英国教会もカンタベリーとヨークの大主教が
緊張関係を作ると聞くと、ローマ教皇も保守派の
次はリベラル派という具合に交互にバランスをと
るのだという。「流水濁らず」と言うように常に
変化することが健全さを担保する。仲間内の馴れ
合いではなく創造的な批判と緊張があることは教
会においても大切だろう。

日本同様、大韓民国も圧倒的な力を誇る政権与
党が政治を握っていた。アメリカを後ろ盾に軍隊
と警察力で国民を統制し、財閥とともに経済発展
だけを追求する独裁政権だった。1987年を転
機に、韓国は長年続いた軍人大統領から文民大統
領の時代を切り開いた。かつては野党指導者とし
て死刑判決まで受けた金大中(キム・デジュン)
が大統領となり、人権弁護士として投獄経験も
ある盧武鉉(ノム・ヒョン)がその後を継いで大
統領になった。もちろん40年にわたる独裁は一
夜にして倒されたのではない。独裁者が過酷な支
配を続けていた時も名もない人々の地道な闘いが
あった。そこでは教会が大きな力となっていたこ
と、日本の教会も連帯活動をしていたことをクリ
スト者は誇りに思うべきだろう。

2007年末の大統領選挙で財閥のリーダー李
明博(イ・ミョンバク)が当選したのは経済発展
が期待されたからだ。20年を経ずして時代は民
主化から一挙に後退し、2013年の朴槿恵(パ
ク・クネ)政権誕生によって韓国は再び時代を逆
行し始めた。朴槿恵を支持した人々の中には、父
親である朴正熙(パク・チョンヒ)時代を懐かし
む高齢者と、小説やテレビドラマなどで経済復興
の英雄として偶像化された朴正熙に憧れる人々が

多いと言われている。民主化も民意だったが過去
を懐かしむのも民意だった。経済の停滞に苦しむ
人々、特に大学を出ても正規職につけない多くの
若者たちや不十分な社会保障制度の中で生活苦し
味わう高齢者が、経済発展を願って過去の偶像に
魅力を感じるの自然なことだったかもしれない。

しかし現実には過酷だ。CEO大統領と言われた
李明博も奇跡の再演を期待された朴槿恵も、財閥
や一部の富裕層の利益を優先しただけで国民の生
活を豊かにすることはなかった。それだけではない。
2014年4月のセウォル号沈没事件は、乗
客を救助せずに逃げ出した船長や利益優先の船舶
会社に対する怒りとどまらず、国家の危機管理
能力の無さと惨事の渦中に所在不明だった大統領
に対する憤りを生み出した。そして2016年10
月の崔順実(チェ・スンシル)ゲートによって朴
槿恵は韓国史上初めて、弾劾裁判によって失職し
た大統領となった。

日本の嫌韓論調には、法ではなく民意で動く社
会だと韓国を揶揄するものがあるが、本来は法も
政治も民意の結晶でなければならないだろう。民
意は人間のエゴでもある、しかし韓国の人々は経
済発展の幻想ではなく正義を選んだ。見捨てられ
るようにして亡くなっていた高校生たちへの思い
を大切にしたい。保守か革新かなのではない。自分
の利益の追求でもない。民主主義とは正義と公平
を目指す制度でなければならないはずだ。

(かやまひろと 東京教区 聖テモテ教会牧師)

追悼辞＝平和を造り出す人たち＝

呉光現



はじめにここ大阪で今年もこうして無念の命を
なくした人々にこの大阪の地で済州4・3の犠牲
者慰霊祭を通して慰霊の思いを捧げます。

70年前の3月1日、済州の観徳亭で6人の尊
い命が奪われました。この日から済州島民への抑
圧、弾圧、そして闘いが始まりました。そして
1948年4月3日、済州43の蜂起が始まり
1954年9月まで済州43事件は続きました。実
に7年以上に及ぶ悲劇の島でありました。

50周年を期に大阪で済州43事件の犠牲者慰
霊祭を始めすでに20年近い歳月を経ました。少
しずつ大阪の地でこの活動が根付き、広がり、そ
して多くの人々が共に歩んでくださるようになり
ました。この過程で体験した方々が語り、それに
傾聴し、常に当事者の痛みを共有しながら大阪の
済州43はあったと思います。

現在、東北アジアは決して平和な状況にあると
は言えません。あらゆるところで緊張、葛藤、反
目があります。韓国では市民・国民の力で、ろう
そくの力で民主主義を守り、闘いつづけています。
しかし日本国内では朝鮮半島の緊張を煽る政治
家、マスコミ報道の波が絶えることはありません。
韓国と日本の差を見る時、「済州43の教訓
＝力での解決は平和を生み出さない」ということ
を再度かみしめたいと思います。今この時こそ、
膨大な人的・物的被害を受けた済州43こそ平和
へのメッセージを発信しなければなりません。

追悼辞のタイトルの「平和を造り出す人たち」
という言葉は聖書にできてきます。「平和を造り

出すこと」は人類普遍の価値でもあります。そし
て平和というものは戦争、紛争がない状態だけで
なく抑圧・差別がなく、一人一人が人間としての
尊厳が守られてこそ平和であります。

そしてこれは世代を継いで伝えていかねばなりま
せん。今年わたしたちは次世代に積極的に済州4
3の平和を伝えたいと願いクラウドファンディ
ングを活用して今までにない多くの若い世代と共
に済州43の慰霊の旅を持ちました。これからは若
い世代と共に取り組むことを働きにしていきたい
と願っています。

大阪の慰霊祭を中心とした大阪の活動はすべて
の犠牲者の魂を慰めることです。済州43で命を
落とした人たちはその尊厳性において差はありま
せん。イデオロギーの対立を越えてすべての人を
分け隔てなく一つの命として大切にしたいと思っ
ています。

そして大阪の取組にいつも関心を持ちご支援を
してくださる済州43平和財団、済州43遺族会
の皆様には感謝を申し上げます。日本
での活動は済州島の皆さんの深い関心と愛情に支
えられています。これからも海峡を越えて共に歩
みたいと願います。

最後に再度済州43事件で一つしかない命をな
くした人々、70年近く苦しんできた人々の願
いを受けてここ日本の地で済州43の解決に向け
て働いていくことを申し上げて在日本済州43遺
族会会長の挨拶としたいと思います。

(おくあんひょん 聖公会生野センター総主事)

2017年4月23日、在日本済州4・3
事件犠牲者慰霊祭にて

のりばん

週3回楽しみの昼食



弘益大学インターンと プール学院高校のボランティア



濟州4・3の犠牲者慰霊祭@大阪

- ㊤ 濟州から来た青少年合唱団
- ㊦ 慰霊祭で献花する人々



張本栄司祭記念礼拝



プール高校のりばんボランティア

毎年2月に、卒業を控えた3年生がボランティア体験にきます。
これからも若い感覚で多くのことを学んでください。

プール学院高等学校 3年 田中 真歩

先日は3日間お世話になりました。私自身にとってとても良い経験ができました。聖公会生野センターに初めてボランティアで訪問させていただいた時は、初めての経験ということもあり緊張や期待や楽しみでいっぱいでした。

初日はわからないことばかりで食事にいらっしゃっているおばあちゃん達にこれして、あれして、と教えてもらうことばかりでしたが3日目には少し役に立てるぐらいにまで成長しました。

私自身曾祖父が在日韓国人であることもあり、韓国料理などにも親しみのある方だったので、初日から食べたことのない料理があって私の知らない韓国料理がまだまだたくさんあるんだな—と週1回のボランティアから帰るたびに母に写真を見せて「これ、美味しかったから作って！」などの会話をしていました。

韓国料理は野菜がとても多くスーパーなどで見たことはあっても食べたことのない野菜をたくさん使っていて、中でも縮みほうれん草が普通のほうれん草と違ってこんなに甘くて美味しいなんて知らなくて驚きました。

野菜をたくさん使う料理ばかりだったので週1回ここに来るだけでも痩せそうな気がしました。

3日間本当にお世話になりました。この経験を活かして大学生になっても頑張ります。

本当にありがとうございました。

沢田香月

私は何度かボランティアをしたことはありましたが高齢者の方々と交流するボランティアは初めてですごく良い経験をさせていただいたなと思います。初めはどんなボランティアかと不安でしたがすごく楽しい時間を過ごせました。最近K-POPを聞く機会があり、好きになりました。元から韓国料理などは好きだったのですごく良い機会だなと思いました。韓国料理と一緒に作りたべたことをすごく光栄に思いました。もっと共に作ってたべたいと思いました。なのでまた行きたいと思います。韓国人留学生が居たのでとても良い機会に出会えたなと思いました。こういう機会が今までなかったのでプール学院と聖公会に感謝のりばんのスタッフのみなさんにお礼申し上げます。これからは韓国語を勉強し、いろんな国の文化や風習を学んで大学でも頑張りたいとおもいました。素敵な経験をありがとうございました。また行きたいと思っているのでよろしくお願いたします。

柳生です

3日間ありがとうございました。

私は、ボランティア自体ほぼ初めてさせて頂いて初日は凄く緊張していたのですが、のりばんの方々はみなさんとても優しくかったので安心しました。

元々韓国には少し興味がありました。

大学でも副専攻で韓国語を学ぼうと思っていました。

そんな中、今回の経験をさせて頂けたことは本当にラッキーなことだと思いました。

3日間食べたり作ったりした料理はほとんど初めて見たものばかりで正直驚いたものもありましたが、どれも凄く美味しく特に印象に残ったのが2日目に食べたコラーゲンの入った汁物です。

家で家族に3日間毎日どのような事があったのか話すと、羨ましがられました。韓国料理の作り方を教わって来てほしいと言われて—昨日チヂミを作って食べました。

のりばんで作った時よりは上手くできませんでしたが、家族みんな喜んで食べてくれました。のりばんにいらっしゃった皆さんがたくさん話しかけてくださって本当に嬉しかったです。もっと自分からお話しに行けばよかったと少し後悔しています。自分の祖父母やその親戚と一緒にいる気分でした。

1日目、3日目は韓国の留学生と交流できる貴重な体験もさせていただけたこと、思っても見なかったのが初めは言葉の違いにお互いに戸惑ったところもありましたが、すぐに仲良くなれてよかったと思いました。

そして、今でも連絡をとりあっているので良い出会いができたなと凄く感謝しています。

最終日の最後に感想と、お話を聞いて差別とは一刻も早く世界からなくなってほしいと強く感じました。

学校でも差別等の授業を何回かしましたが、その時よりも心に刺さるものがありました。

恐らくそれは、今回このような経験をさせて頂けたことが関係してると思います。

3日間本当にありがとうございました。またみなさんにお会い出来たらと心から思っています。

内藤由季

ボランティアに参加させていただいたプール学院の内藤由季です。初めてのボランティア活動だったので1日目は緊張しながら在日韓国・朝鮮人高齢者と過ごしました。韓国留学生もいて、韓国語は難しかったのですが、なんとかお話しすることができました。すごく気さくな方ばかりで、話しかけてくれてとても嬉しかったです。日本語がとても上手でびっくりしました。韓国料理と一緒に作って食べるということによって、コミュニケーションを自然に取ることが出来ました。初めてのボランティア活動だったので、何をしたら良いのかわからなかったけど、みんな優しく接して下さって楽しくお手伝いすることができました。本当に良い思い出になりました。

食べたことがない料理を知ったり、韓国語が飛び交う環境にすごく不思議で楽しく、貴重な体験ができました。このような活動をもっと増やして、日本人と韓国人で差別などなくし、交流を深められたら良いなと思いました。またこのような機会があったら是非参加したいです。

コラム・一粒の麦

映画「かば」のご紹介

司祭 古澤秀利

この5月に、映画「かば-西成を生きた教師と生徒ら-」の試作版と「ドキュメント オブ かば」(映画「かば」製作のドキュメント)の上映会に参加しました。「かば」というのは、釜ヶ崎や被差別部落が隣接する大阪市西成区北部の中学校で1980年代に教べんを執っていた蒲益男先生の愛称で、この映画のモデルとなった人物です。当時の中学校は全国的に荒れていたようですが、着任を避けるベテランの教師がいたと言われるほど、映画のモデルとなった中学校は特に荒れていました。それは、生徒たちが社会から自分たちに向けられる差別と偏見を目の当たりにする中、悩みと葛藤の渦に飲まれながらも自身の生き方を模索するからでした。

生徒たちに、教師と生徒としてではなく一人の人として向き合い続けたかば先生。試作版では何人かの生徒のエピソードが紹介されていました。友人たちが、自分の出身地である被差別部

落の悪口を言い合っている場に遭遇して悩む生徒。在日であることをからかわれて不登校になった生徒。どれも実際の出来事だそうで、かば先生や同僚の先生たちは一人ひとりにじっくりと関わっていきました。「生徒」ではなく「一人の人」として接するかば先生の視点は、イエスのそれと同じだなと感じます。

かば先生は2010年に58歳の若さで亡くなります。かば先生の人物像に強く惹かれた川本監督は映画化を決意し、2018年の公開を目指していますが、なかなか制作費が集まらないようです。各地で試作版を上映して制作費の寄付を募っています。ぜひとも完成版を見に行きたいですね。映画完成のために、皆さんも試作版の上映会を企画しませんか？(試作版の映像は <http://kaba-cinema.com/making>)

(ふるさ ひでとし 大阪聖愛教会牧師)

= 余韻 =

- 九州教区の武藤主教さまの巻頭言に接して「謝る」ことの大切さを再び思う。人と人、社会と人、国家と国家・・・、様々なシーンがそこにはある。謙虚さと神様が見つめておられることを忘れずにいたい。
- 九州豪雨の被害にあった方々にお見舞いの言葉をいかに探していいのか？ 昨年の地震に続き、豪雨被害。なくなった方々の魂の平安と今も苦難の中にある人々への祈りと行動が求められる。
- 苦難の中にある人々に寄り添って生きる、この信仰を私たちは忘れずにいたい。(ピクアンチャ)

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

- ◇ 正会員 年額 1口 10,000円
- ◇ 後援会員 年額 1口 3,000円から
 - ・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
- ◇ 自由献金・クリスマス献金
 - ・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
 - ・銀行振込 三菱東京UFJ銀行 東大阪支店
普通預金 4654965「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL 06-6754-4356 / FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現